

## 第15回新城市若者議会

令和6年3月21日（木）午後7時～午後8時  
新城市議会 議場

## 開会 午後7時

### 1. 若者議会議長あいさつ

○平井緑空議長 若者議会議長の平井です。若者議会条例第6条第1項に基づき、本日の進行を務めさせていただきます。ただいまから新城市若者議会市長報告を行います。

5月の第1回若者議会から私たちは、若者が活躍できるまちを実現するべく、何度も議論を重ね、8月の第6回の若者議会では、政策の中間報告を行いました。その後、担当課との意見交換なども通して、令和6年度若者議会予算事業計画を策定し、11月に市長へ答申しました。

本日は、11月に行った市長答申以降、3つの事業についての進捗状況を報告させていただきたいと思います。また、報告後に時間をいただき委員から今期1年間の活動を振り返らせていただきたいと思います。

それでは、事業ごとの報告に移ります。

### 2. 事業報告

○平井緑空議長 初めに、まちづくり委員会による「集まりん 深まりん かふえりん事業」です。発表者は、梅田禪之助（うめだぜんのすけ）委員、柏木清吾（かしわぎせいご）委員です。よろしくお願ひします。

○梅田禪之助委員 まちづくり委員会の発表を始めます。

事業名は、「集まりん 深まりん かふえりん事業」です。この委員会では、若者や子どもが活気づいているまちを目指します。今回、私たちが提案する“集まりん 深まりん かふえりん事業”では、まちなか情報センター1階で交流が生まれ、深まり、若者が主体的に活動できる環境につながる空間づくりを目指します。

現在は、学習や1人で過ごすための1人席が多く、声を出して交流することに抵抗が出てきてしまう雰囲気になっています。なので、

学習利用だけでなく、カフェのように自然と話し、交流することができるような空間を再構築し、若者が活発に交流できる雰囲気をつくります。また、駅前にあるためバスや電車などの公共交通機関を利用する人もまちなか情報センターを待合所として、活用できるような空間にすることでさらなる利用者の増加につながります。この事業により、人が集まり、深まることで若者同士の活動が生まれ、市に活気ができ明るいまちになると考えます。

最初に政策案の概要についてご説明します。政策案は、若者が活発に交流できるような空間づくりを目指し、まちなか情報センター1階に若者が交流しやすくなるスペースを整備します。リノベーションは、交流しやすいようにグループ席の追加、学習や待合所としても利用できるように一人席、ソファを設置します。また、現状あまり利用されていないボードゲームが交流の起点となるように、利用者の手に取りやすいよう、配置の変更とPRを行います。

最後に雰囲気づくりとして、カフェのBGMのような曲を流し、1階のしゃべりやすい雰囲気を促進します。

○柏木清吾委員 リノベーションだけでなく、政策を周知するためにターゲットの市内の若者にまちなか情報センターの活用のPRをします。まちなか情報センターを交流で利用してほしいことを知らない人もいるので、リノベーションの周知とまちなか情報センターが交流を目的としている施設であることを再度市内の若者に認識してもらうことが兼ねられています。公共施設や学校などにポスターを掲示するほか小中高生にはリーフレットの配布、20代の若者には、インスタグラムの広告を使用し、周知を行います。ポスターやリーフレット、インスタ広告のデザインについては、スライドのとおりとなります。ポスター、インスタ広告のデザインは写真ベースのデザインとなっており、リノベーション後の

内装と雰囲気を伝えることを主な目的とします。リーフレットについては、各階ごとの内装や、まちなみ情報センターでできることのほか、作手交流館や、市民センターほうらいなどの市内の若者が利用できる施設も紹介する予定です。また、まちなみ情報センター1階にもまちなみ情報センターで利用できるサービスが書いてある利用案内を掲示して、来た人に利用できるサービスがわかりやすいようになります。

さらに、内装のリノベーションに加え雰囲気づくりの一環として職員の意識改革を実施します。具体的には、あいさつや、受付の対応の仕方のほか、自発的な接客により、職員がまちなみ情報センターの交流の一部となることを目指します。来た人に「また、まちなみ情報センターに来たい！」と思ってもらえるようにしたいです。

他にも、勉強するだけの場所から楽しく遊びもできる場所へと考えを変えるられる手助けとして、ボードゲームを活用したイベントの開催などを予定しています。このイベントをまちなみ情報センターに来るきっかけとしたいです。

私たちはこの政策をすることで、若者や子どもが活気づいているまちを目指します。まちなみ情報センターがまちづくりの起点となるような施設になり、気軽に集まり、交流できる場となるような場所になってほしいです。

これでまちづくり委員会の発表を終わります。

○平井緑空議長 ありがとうございました。自席にお戻りください。次に、若者議会委員会による「Newジェネ事業」です。発表者は、森田 幸輝（もりた こうき）委員、菅沼 大輝（すがぬま ひろき）委員です。よろしくお願いします。

○森田幸輝委員 若者議会委員会では、若者がまちづくりに興味を持てるまち、そして、まちづくりに挑戦できるまちを目指すことを目的として、「Newジェネ事業」という次の世代に繋ぐ事業を検討し、答申しました。11月の市長答申の際に提案した内容について改めて簡単に説明させていただきながら、11月以降に検討した内容を報告させていただきます。

若者議会に関するアンケートでは、名前は聞いたことがあるという回答が多かったものの、難しそう・大変そうというマイナスイメージが多くあることが分かりました。その他にも近年の若者議会の委員数が定員に満たない年も見られ、新規委員の獲得が課題になっています。

以上のこと踏まえ、小さい頃からまちづくりや若者議会について知ってもらい、そのようなマイナスイメージをなくすことによって、若者議会に入ってくれる人を増やし、より多くの若者に身近なまちづくりに気づいてもらうことを目的として、市内の小中学生をターゲットとした2つの政策を提案しました。

1つ目は、若者議会のPRです。この政策ではポスターと名刺サイズのカードの2種類の広報物を作成し、若者議会のPRをします。若者議会のマイナスイメージを変えられるよう、ポスターはくすっと笑えるような内容を答申以降具体的に検討してきました。コノハズクの写真に「僕の声、ぶっぽうそう。君の声、ぶっ放そう。」というキャッチフレーズを入れたデザインや、若者議会に入る前と後の比較ポスター、間違探しポスターなど、スライドのイメージのようなデザインを4種類作成し、市内の小中学校、高校、公共施設、駅、コンビニ、飲食店などへの掲示を考えています。また、間違探しのデザインは小学校を中心に掲示するなど、掲示先の利用者年齢層に合わせたものを掲示します。名

刺サイズのカードは、表面にポスターのデザインと同じものを載せ、裏面は若者議会のマスコットキャラクターである「わきやっぴ」の名刺としてデザインします。これは若者議会の堅いイメージの打破に加え、「わきやっぴ」の認知度アップも目的にしています。また、裏面の二次元コードから若者議会のオフショット動画を見れるようにし、若者議会の堅いイメージを少しでもやわらかくすることができればと思います。

次に、2つ目の政策として「つながる地域と若者の輪」のブラッシュアップを提案しました。会場を市役所の会議室から中学校に変更することや、ワークショップの前にフィールドワークの時間を設けることなどを提案しました。答申以降は、フィールドワークの内容を具体的に詰めてきました。候補として湯谷温泉や消防署、資料館、農業関係などについて午前中のフィールドワークで現地に赴き、魅力や現状、課題を知ってもらいます。その魅力や課題から、それをどのようにしたら解決できるか、もっと活かせるかということを話し合ってもらいます。周知方法としてスライドにあるようなチラシを想定しています。これまでのチラシよりもポップなデザインとなっています。

○菅沼大輝委員 以上、2つの政策について答申後の検討内容を報告させていただきましたが、ポスターやカードを作るだけでなく、自分たち自らでもPRしたいと考え、2月の軽トラ市において若者議会のPRをしてきました。スライドの写真が当日の様子になります。若者議会の提案事業による成果物の展示や、小さい子向けに若者議会のマスコットキャラクター「わきやっぴ」の塗り絵、若者議会知名度調査などを行いました。知名度調査では、市内在住の方と市外在住の方に分けて新城市若者議会についてどの程度知っているかを尋ねました。5年前、第4期若者議会でも知名度調査をしていましたので、それと比

較できるよう同じ質問・選択肢で調査しました。結果はスライドのとおりです。市内在住の方については、「全く知らない」が15.5%で第4期の調査から8.1ポイント減少、「名前は知っているが活動内容は知らない」が40.8%で13.6ポイント減少し、「名前も活動内容も知っている」が43.7%で21.7ポイント増加しました。市外在住の方は、「全く知らない」が71.2%で1ポイント減少、「名前は知っているが活動内容は知らない」が18.6%で1.2ポイント減少し、「名前も活動内容も知っている」が10.2%で2.3ポイント増加しました。市外の認知度は微増ですが、市内における認知度は高まっていることが分かりました。高まってきてはいますが、活動内容まで知っている人はまだまだ少ないので、来期以降も継続して軽トラ市等で若者議会の活動周知をしていただきたいです。

また、若者議会が10年を迎えるにあたって、より若者が参加しやすい若者議会にするために運営改善会議を行いました。この会議では委員会間での関わりの少なさや堅苦しいというイメージ、新城市に関わっている実感がない、オンラインで参加すると話しづらいなどの意見が挙げられました。ここで出た意見を踏まえて運営改善をお願いできたらと思います。以上で若者議会委員会からの報告を終わります。

○平井緑空議長 ありがとうございました。自席にお戻りください。次に、農業委員会による「seeds for shinshiro～おいしいでつながる地域の○(輪)～事業」です。発表者は、古瀬有菜（ふるせゆうな）委員、小林倫（こばやしりん）市外委員です。よろしくお願ひします。

○古瀬有菜委員 農業委員会の発表を始めます。事業名は、「seeds for shin

しろ～おいしいでつながる地域の○(輪)～事業」です。

私達は、様々な原因で農業人口が減少し、管理されない農地が増加していることを問題と感じ、これを解決し、将来、農地が適正に管理され、景観もよい、住み続けられるまちとなることをを目指すこととしました。しかし、急に農業人口を増やすことは難しいと考え、まずは、新城が「おいしいであふれるまち」であることを知ってもらうことを目標としました。

この目標達成のために、3つの事業を答申しました。1つ目は、地元スーパーなどへキャンプ用の食材セットの販売を提案し、「キャンパーに特産品を食べて知ってもらう『キャンプ用特産品セットの販売促進』」、2つ目は、市内の人々に地場産物を使用した給食レシピを考えてもらい、地場産物に興味を持ち、地産地消の普及啓発につなげる「給食レシピコンテストの実施」、3つ目は、新城市的農業を紹介するパンフレットやポスターを作成して、移住相談会などで掲示したり配布することで、農業に興味のある移住希望者等に新城市を知ってもらう「農業体験等の紹介」です。

答申後は、地元スーパーなどへ提案するキャンプ用の食材セットの内容や、市の企画調整課や農業課の皆さんと意見交換しながら、給食レシピコンテストの内容やチラシ、新城市的農業情報や雰囲気を伝え、市内で実施されている農業体験を紹介するパンフレットの構成、おいしいであふれるまち新城のポスター・デザインについて検討してきました。

○小林倫市外委員 給食レシピコンテストの周知チラシデザインについては、多くの人に参加してもらえるよう料理の写真を載せ、目を引くデザインを心がけました。チラシに載せる素材として、実際に家で作った料理や、今年度に市の農業課が実施した給食レシピコンテストなどの写真を集めました。

また、農業体験を紹介するパンフレットに

ついては、移住に興味がある方などで、家庭菜園など少しだけ農業をやってみたい層をメインターゲットとしています。パンフレットをきっかけに実際に新城市を訪れ、肌でその魅力を感じてもらいたいという思いを込めました。市内で行われる各種農業体験の情報を見てもらうほか、実際に新城市に移住した方々のインタビュー記事や新城市的特産品の紹介、新城市に住みながらできる趣味の紹介なども載せて、新城市に移住するイメージをもってもらいたいと思っています。

また、市議会議員の皆さんとの意見交換において「若者議会の委員の写真を入れるなどして、若者らしさを出した方がいいのではないか」という御意見をいただきましたので、私達の写真もパンフレットに織り交ぜ、新城市を紹介する内容にする予定です。

以上、答申後の活動内容を報告させていただきましたが、私たちは農業委員会として1年間活動してきて、新城市は、新規就農者へのサポートが充実していることから毎年一定数が就農していることや全国で評価される魅力的な農産物があることを知りました。しかし、地元の人ですら新城の魅力的な農業について、あまり知らないことも知りました。今回提案したこの政策により、新城がおいしいであふれるまちであることを多くの人に知ってもらえればと思います。これで農業委員会の発表を終わります。

○平井緑空議長 ありがとうございました。  
自席にお戻りください。

### 3. 1年を振り返って

○平井緑空議長 続いて、1年の振り返りを行います。各委員順番にお願いします。

初めに、二橋英莉（にはしえり）委員お願いします。

○二橋英莉委員 農業委員会の二橋英莉です。

私は今回の若者議会を通じて、普段かかわることがない皆と出会い、一緒に活動できたことをとても嬉しく思います。

農業委員会では、新城市の農業について、皆それぞれの自分の知識や経験を生かして意見をしたり、思いを伝えたりしました。私は、はじめ上手く話せるかなと不安でしたが、少しづつ、話していく中で打ち解けることができ、農家で働いている経験をもとに、意見や思いを話すことができたと思います。今回の政策では、新城市においしい特産品があるということを知ってもらうために、どのようなアピールをしていくかを工夫しました。例えばターゲット層を絞り、市内外のキャンペーに向けたキャンプ用特産品セットや市内の人に向けての給食コンテスト、家庭菜園等、ちょっと農業をしたいなと思っている移住者向けのパンフレット等、一つ一つ思いがこもっている政策です。この政策をきっかけにおいしいであふれる新城を知る人が増えたらいいなと思います。

最後になりますが、1年間本当にありがとうございました。

○平井緑空議長 次に木戸ゆめ（きどゆめ）委員お願いします。

○木戸ゆめ委員 まちづくり委員会の木戸ゆめです。本年度で3度目となる若者議会は、やはり私を成長させてくれる場でした。思い通りにはいかない委員会の前半の活動は、悔しい気持ちでいっぱいだったこともありました。しかし、まちをつくるということが、どのようなことなのか、再確認することができました。また、若者議会に所属していなかつたら、体験することができなかった出会い、機会も多くあります。

1つにマニフェストアワードコレクションがあります。地方の議会議員さんと話をする中で、自分の住んでいるまちがどんなにすばらしい取り組みをしているのかと、誇らしい気持ちになったのと同時に、これから若

者議会がどうあるべきかを考えるきっかけとなりました。今後の若者議会は、話し合いの枠を委員会にとどめず、議員さんを始めとした新城市を、あらゆる面で支えている方との交流も活発になるといいなと考えています。

若者の成長、そして新城の成長、どちらもかなえる若者議会に関わることができ、最高の1年となりました。ありがとうございました。

○平井緑空議長 次に梅田禪之助（うめだぜんのすけ）委員お願いします。

○梅田禪之助委員 まちづくり委員会の梅田禪之助です。私にとって、この第9期若者議会の委員として活動した、この1年間は、私の考え方を広げてくれるような1年でした。私のような高校生にとって、新城市をより良くしたいという思いから、様々な境遇の人と関わることはめったにないことでした。高校生はもちろん、大学生の方や社会人の方など、様々な人と他の視点から、新城市という1つのものを見つめていく中で、私にはない視点に触れていき、私が感じることができなかつた新城市を知ることができた他、自分自身が本来感じていたことを再認識でき、より一層、私自身の考えを深めることができました。

私たちが発案した政策は、私たち若者が、新城市はこうあって欲しいという理想を体現するために、できていると考えています。その政策が新城市にとって良いものであったと胸を張っていえるように、地域の未来を担う若者の思いを表現する若者議会という場で活動したその経験を生かして、今後も新城市のために活動していきたいと思っています。

○平井緑空議長 次に古賀咲菜（こがさきな）委員お願いします。

○古賀咲菜委員 若者議会委員会の古賀咲菜です。

新城市には戻ってきたいと思える場所であって欲しい、初めて来た人がまた来たいなと思うような地域、一度離れてしまったとしても、誇りに思えるような地域であってほし

い。これは私がこの場所で所信表明を行った時に言ったことです。今もこの思いに変化はありません。

最後にここで何を話したら良いのか、とても迷いましたが、率直に、1年を通して、何を感じ、考えたのかということを話したいと思います。この1年間、若者議会のメンバーとして活動をして、周りの人たちに支えられ、助けられながら、ここまで成長することができたと改めて感じています。

また、会議をする中で、地域に対する思いや、感じている課題が人それぞれであるために、全員の意見が一致する政策を考えていくことが、いかに難しいかということも感じました。

地域政策学部のある大学へ進学すると決めたきっかけになったのは、高校生の時に若者議会へ参加したことであり、若者議会に応募するきっかけになったのは、中学生の時に参加した中学生議会やアライアンスなど、地域のイベントでした。どれも、私1人の力では成り立たず、周りの方からのサポートがあったからこそ、楽しいと思える活動だったと実感しています。中学生の頃から地域に関わる機会を多く持てたことや、それを支える方が多くいたことをとても感謝しています。時代とともに目覚ましく変化していく地域課題に向き合い続けていくことは想像できないほどに大変なことだと思います。しかし、先進的に若者のまちづくり活動をサポートし、意見を取り入れていく制度があること、それを支える人たちが多くいる新城市を、私はとても誇りに思っています。そして、これから先も新城市的まちづくりに関わっていきたいと、1年の活動を通し、強く思いました。

○平井緑空議長 次に田畠夏輝（たばたなつき）委員お願いします。

○田畠夏輝委員 まちづくり委員会の田畠夏輝です。私は若者議会に入りたてのころは、自分の意見を持つことができず、委員会の話し合いに入ることができませんでした。ですが、市役所職員やメンターさんのおかげで、積極的に意見を出していき、だんだんと自分の意見を持てるようになりました。その結果、

委員会の話し合いに入るようになり、他の人の意見を取り入れながら、自分の視野を広げるようになりました。若者議会で得た力を、高校生活や社会に出てから生かせるようになりたいと思いました。

○平井緑空議長 次に森田幸輝（もりたこうき）委員お願いします。

○森田幸輝委員 若者議会委員会の森田幸輝です。私は若者議会に入り、前期を含めて、大きく成長できたと感じています。

その1つに、誰とでも気軽にコミュニケーションが取れるようになったと思います。若者議会に入る前は、初対面の方には特に緊張してしまい、話せずに終わってしまういうことが多かったです。しかし、若者議会では、自分の知らない人と話す機会が多く、自分も積極的に話そうと努めてきました。その結果、学校や地域で初めて会話をする人とも、ためらわずに話すことができるようになっていました。また、若者議会のPRのポスターを考える際、どうすれば若者議会に興味を持ってくれるだろうと、何回も試行して、こんなポスターやチラシなら目を引いてくれるのではと提案を会議の中でしてみました。少し緊張気味でしたが、共感を抱いてくれる人や、私もなるほどと思わず言ってしまうような素晴らしい案も多く出て、目標に向かって頑張る楽しさを知れました。軽トラ市で、若者議会について知っているのかの調査を行った際に、若者議会を全く知らないという票が少くなり、若者議会の認知度は少しづつですが改善されつつあると自分の中では感じてきました。若者議会委員会が考えた政策を通して、若者議会がもっと盛り上がっていきことを、願っています。これからも若者議会で学んだことを意識して頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、昨年度も含めて2年間、本当にありがとうございました。

○平井緑空議長 次に杉浦拓明（すぎうらたく）委員お願いします。

○杉浦拓明委員 農業委員会の杉浦拓明です。私は昔から人前で自分の意見を言うことが大の苦手でした。そんな自分が昔から嫌いで、少しでも今の自分を変えたいと思い、今回この若者議会に参加しました。

最初は、会議に参加しても、緊張のあまり自分の意見を相手に伝えることができず、とても悔しい思いをしました。しかし、事務局さんや他の委員さんが背中を支えてくれたこともあり、少しずつではありますが、意見を言うことができるようになりました。

私は農業委員会で活動していく中で、今まで知らなかつた新城市の特産品を知ることができたり、農業の課題として、農業従事者の高齢化や、後継者不足などの様々な問題点を知り、改めて新城市的魅力や課題を実感しました。パンフレット制作では、実際にパンフレットを手にとる人が、何を求めているのかを考え、工夫をしました。その際、政策を考える上で、常に受け取る側の立場で考えることが大切だと思いました。

最後に、今まで1年間背中を支えていた事務局さんや先輩方には心から感謝しています。1年間ありがとうございました。

○平井緑空議長 次に菅沼堅太（すがぬまけんた）委員お願いします。

○菅沼堅太委員 農業委員会の菅沼堅太です。長いようで短かった第9期若者議会で私が変わったところは、別の角度から物事を考えられるようになったことです。これは若者議会だけでなく、日常生活でも使えることなので、身についてよかったですと思っています。また、コミュニケーション能力が乏しかったので、向上させることも1つの目標として、議会に参加しました。その結果、改善されてきたので、よかったですと思っています。

今回の政策を考えるのに、農業のことを知らなければ難しかったところがあり、自分は農業といっても、従兄弟がやっているお米のことしか知らなかつたため、難しいところがありました。そのため、委員会に分かれて1年の振り返りをした時、1回実際に体験してみた方がよかったですという意見が出て、確かに体験した方が、政策案などが考えやす

いなと思いました。今回の政策で1人でも多くの市民にどのような地場産物があるのかを知ってもらい、使ってもらい、少しでも農業に興味が向いてもらえたらしいなと思っています。これからも若者議会等の団体に所属したいと思っています。1年間ありがとうございました。

○平井緑空議長 次に古瀬有菜（ふるせゆうな）委員お願いします。

○古瀬有菜委員 農業委員会の古瀬有菜です。私は2年間若者議会で委員をさせていただきました。昨年の第8期は成長と挑戦の1年でした。物事を自分から伝えることが苦手でしたが、活動を通じ、自分の意見を持ち、伝えることができるようになったと思っています。

そして、今年は、より成長と挑戦を感じました。理由は2つあり、1つ目は、若者議会でしか関わることができない人たちと活動することができたことです。私は市内の高校に通っていたため、登下校などで、同じ高校以外の人と関わる機会がありませんでした。しかし、若者議会に参加し、昨年より同じ高校の人が少なかったことで、同世代の違う高校に通う人だけでなく、大学生の方や社会人の方等、初めて会う人たちと活動することができました。

2つ目は、自分から伝えることを意識したことです。農業という普段あまり関わりのないことでしたが、他の委員のメンバーに頼るのではなく、自分から考えを伝えることを意識しました。どのようにしたら、パンフレットを受け取った人が内容を理解してくれるのか、考へるのは大変でしたが、自分のできることは最大限できたと考えています。

若者議会に参加したことで、普段考へることもなかつた新城市について、たくさんの人と意見を出し合い、政策を作り上げることができました。新城市がよりよくなるよう、身につけた経験を生かし、生活していきたいです。1年間ありがとうございました。

○平井緑空議長 次に大谷裕菜（おおたにゆうな）委員お願いします。

○大谷裕菜委員 若者議会での活動を振り返って、新城市のことをたくさん知り、たくさん考えることができた1年でした。

私は若者議会での活動が初めてで、わからないことがたくさんありました。ですが、事務局さんや他の委員さんがたくさんサポートしてくれて、活動することができました。本当にありがとうございます。

会議を重ねるごとに問題点や改善点を見つけ、良いものへと昇華させることができたのも、皆様のおかげです。1年間の活動を通して、たくさん学び、成長することができました。若者議会での経験を、これから的人生に生かしていくように頑張っていきたいと思います。1年間ありがとうございました。

○平井緑空議長 次に菅沼大輝（すがぬまひろき）委員お願いします。

○菅沼大輝委員 若者議会委員会の菅沼大輝です。早いもので、第9期若者議会も最後になりました。私は高校生活の3年間、第7期から今期に至るまで、3期連続で委員を務めさせていただいたため、3年間通しての振り返りについて話させていただきます。

高校1年生の時、第7期PR委員会の委員として、初めて若者議会に参加した時は、何を話して良いのか、どのタイミングで話すべきなのかが全くわからず、問われたら、それに対して答えるロボットのような人になってしましました。しかしながら、当時のメンターや職員さんのアドバイスを受け、高校2年生、第8期教育・子育て委員会の時には、自ら活発に意見を言うことができるようになっていきました。

そして今期、第9期若者議会委員会では、それまでの2年の経験を生かし、政策を考え、答申することのみならず、軽トラ市に広報活動に行くなど、より幅広い活動を行うことができました。

このように、少しづつながら若者議会に貢献できるようになったのは、的確なアドバイスをくださったメンターの皆さん、市職員の皆さんのおかげです。来年度以降は、これまでの経験を生かし、人に助言や手伝いので

きる人材として、何かしらの形で若者議会に携わっていくこと、また、若者議会、まちづくりにより貢献できる人材となるよう、様々な分野で経験を積み、研鑽を重ねて参ります。1年間ありがとうございました。

○平井緑空議長 次に柏木清吾（かしわぎせいご）委員お願いします。

○柏木清吾委員 まちづくり委員会の柏木清吾です。私は、前期である第8期から若者議会に参加しており、8期から比べて、一番の成長は、自分の意見を正確に相手に伝えられるような力を身につけたことです。自分の思いを相手に伝えることで、相手の心を動かし、そして自分が思う以上に、よりよい結果を出せるようになりました。また、若者議会を通して、様々な経験をさせていただきました。例えば、他市との交流です。その交流はとてもいい刺激となりました。わかもののまちサミットや、富田林市との交流会、どれも楽しく、自分にとってはとてもいい経験となりました。

自分が、市に対する思いを他の人に共有することは、とても大事だと感じました。

これらの成長と経験から、これからは若者議会という制度を大切にし、市外に向けて、自分の活動を発信できるような活動をしていきたいと考えています。1年間ありがとうございました。

○平井緑空議長 次に小林倫（こばやしりん）市外委員お願いします。

○小林倫市外委員 農業委員会の小林倫です。私は大学で文学部に所属しており、地域とか政策とかには全く無縁の状態でした。大学でたまたまとった授業や、大学で参加した事業がきっかけで、若者議会に参加するに至りました。もともと私は新城市的高校に進学して、新城市自体のことが好きになっていたので、新城市をよりよい環境にしたいという思いがありました。大学は様々な人と交流ができる場ですが、若者議会はより広い年齢層の方と交流することができました。また、新城市を

良くするという目的を達成するために、集まった皆さんと交流することができたことが、とてもよい経験になったと思っています。

同じ目的を持った広い年齢層の方たちと1年を通して、話し合いをすることができたのは、私自身の中でも、今後も生き続けると思っています。

農業委員会として、今回とてもよい政策を提案することができました。自身の経験を生かして、今後は若者議会ではなくても、自身の思いや、周りを巻き込んで挑戦することを続けていきたいと思っております。1年間ありがとうございました。

○平井緑空議長 次に府内宏樹（ふないひろき）市外委員お願いします。

○府内宏樹市外委員 若者議会委員会の府内宏樹と申します。私は高校時代に若者議会の存在を知り、今回参加させていただきました。全国的に見ても、先進的な取り組みをしている若者議会に所属したことで、多くのことを学ぶことができました。例えば、委員会での活動は、オンラインという画面越しではありませんが、活発に議論している仲間の姿をいつも目にすることができます。

また、若者議会を通じて参加させていただいたわかつものまちサミットでは、全国各地で活躍する私と同じような考えを持つ若者や、若者の社会参画に興味のある自治体の方々とお話することができたことで、自分自身が勇気づけられた他、多くのことを吸収させていただきました。

若者の意見を市政として反映することができる若者議会は、超高齢社会である地方の課題の観点から、とても効果的です。ですが、このような取り組みを行っている自治体は、まだまだ少ないので現状です。今後、より多くの自治体が若者の声を聞き、反映できる組織づくりを進めるとともに、将来的にはこのような組織がなくとも、若者が自発的に活躍できるまちになって欲しいと願っています。

私の将来の理想像は、主権者教育に携わる仕事に就くことです。若者がより政治に興味、関心を持ち、自分が住む地域をより良くできるように考え、行動できるような主権者

教育について、今後も研究していきたいと考えています。1年間どうもありがとうございました。

○平井緑空議長 次に梅田昌茉（うめだしょうま）市外委員お願いします。

○梅田昌茉市外委員 まちづくり委員会の梅田昌茉です。私はこの第9期若者議会で3期目の参加になります。ですが、やはり話し合いに参加するのは苦手だなと感じます。

後半は大学受験もあり、不参加の時期がすごく多くなってしまったのですが、あまり意見できなかつたなと思うのは、やはりこの1年で感じたことです。しかし、この3年間での経験は、私が将来やりたいを見つけるきっかけになりました。

この若者議会の最大の強みであり魅力であると私が思っていることは、様々な年代層の方と話し合いをすることができるところだと思います。幅広い年代層の方と話し合いをする機会はとても貴重な時間で、体験であり、とても有意義で価値のある時間だったと思います。

○平井緑空議長 最後に、加藤広斗（かとうひろと）副議長、お願いします。

○加藤広斗副議長 まちづくり委員会の加藤広斗と申します。よろしくお願ひいたします。

私が活動したこの一年、気をおもくせず、楽しく政策を考えていける活動であったと、心より感じました。これは市役所職員の方たちのサポートやメンターのフォローがあってのことです。まずは感謝を申し上げます。

若者議会の仲間たちとともに政策を考え、過ごしたこの1年、困難もありましたが、とても楽しい一年であったと思っています。政策が最終的に頓挫してしまったりと、やりなおせない部分も多くありました。しかし、今年度、まちづくり委員会を仲間たちとともに作った政策は、これから的新城市を盛り上げていくと思っています。政策が実施されるのをとても待ち遠しく思います。

1年間でしたが、ここにいるまちづくり委員会のメンバーの皆様、若者議会のメンバ

一の皆様と離れるのを、とても寂しく思います。

またみんなと再会できるかわかりませんが、新城のまちづくり団体、はたまた市役所の職員、そういった形で新城を盛り上げていくメンバーとして、相ともにまちづくりをしていけたらと思っています。

○平井緑空議長 ありがとうございました。それでは続いて、お忙しい中、ご出席いただきました。長田市議会議長様からご挨拶をいただきたいと思います。

○長田共永市議会議長 第15回の若者議会、みんな、いい顔していると思います。先月の第14回の若者議会を傍聴させていただいた時、そして、軽トラ市で皆さんのがのぼりを持って、法被を着て、若者議会の先ほどのアンケートをとっていた時、頼もしくそしてうれしく思いました。その中で、最初に君たちに会った時に、私は新城市の若者条例を読んでください。そして、若者議会条例を読んでくださいと言ったと思います。君たちは、今それぞれの挨拶で、自分が成長できたと。素晴らしいことだと思います。成長したのであれば、新城市的若者条例で、端的に言うと、要是このまちは、若者が活躍するまち、それが新城市的若者条例の本旨です。その点を十分留意していただいて、このまちで、まず活躍していただくことを議長としては、心より楽しみしております。

その中で、個々の皆様方の事業については言いませんが、改めてきついことを言うようですが、まだこの事業ができると、皆様方の3つの事業ができると決まったわけではありません。明日、実は本会議と言って、新城市的市議会の3月定例会、その審査を経て、今年の3つの事業が来年度に向けて、できるかどうかが確定します。その中で、これが新城市的すべての予算ではありませんが、予算書というものです。もし見る機会があれば、111ページです。「令和6年度新城市一般会計予算」という題の111ページのこの部分です。

「若者が活躍できるまち実現事業」この部分が君たちの、1年間の結晶です。これがすべ

てではないですが、君たちの3つの事業以外にももちろん載っているのですが、ここに、載るだけで、いかに大変なことか。これを、1つずつ、もちろん審査をするわけですが、まずここに載る大変さ、簡単に載ることはできません。一般の市民の方が、何か事業をやると言って、予算をつける。そんな簡単につくものではありません。その点はきちんと我々も審査しますので、君たちも責任を持って、このそれぞれが提案した事業をこれからも見続けていってほしいと思っています。

それが君たちの責任です。あわせて、若者議会の1つの形というのが、この令和5年度第9回若者議会もワンチームだと思っております。それぞれの、皆さんの意見がどういった意見で、こうした事業になったのか私には、すべてはわかりません。そんな中で1つ例えを言うと、ディズニーランドの駐車場のスタッフに、ある人がこういったといいます。

「本当は中で働きたかったのではないですか」と言った時に、そのスタッフは、「お客様に一番早く会えるこのポジションが、私はうれしい。」と言ったそうです。それぞれ、君たちは、若者議会議長を中心として、1つのチームであったかと思います。その点を改めて考えて、それをいい思い出にして、これからもまちづくりに興味を持っていただきたいと思います。

毎年このことも言うのですが、市民の権利には、請願とか陳情という方法があります。そんな中で2年ほど前、倉吉市の1人の高校生は、市議会に1人で陳情という方法で議会を動かしたことがあったかと思います。君たちの、それぞれ本年度経験して作り上げた事業がもしより良くなるとすれば、堂々と、議会にも陳情という形でもできますので、ぜひ来ていただければと思っております。

改めて最後にはなりますが、これからも若者議会を見守ってください。そして、君たちの活躍を祈ります。議長として、改めて感謝とお礼の挨拶をします。お疲れ様でした。

○平井緑空議長 ありがとうございました。最後に、下江市長からご挨拶をいただきたいと思います。

○下江洋行市長 第9期の若者議会委員の皆

様、本当にこの1年間ありがとうございました。私から一言挨拶というか皆さんにお礼を申し上げたいと思います。

只今、平井議長、そして加藤副議長のもとで、3つの委員会の皆さんと、この1年間、真剣に取り組んでくださいました。それぞれの事業の報告をいただきました。本当にありがとうございます。本日いただきました報告につきましては、11月に市長答申をいただいた時、私から、これからさらに、この提案が実効性のあるものになっていくような、検討を重ねていただきたいということを申し上げましたけれども、そうした私からのお願いも踏まえて、さらに、そのちに議論を深めていただきまして、より具体的な内容を検討していただいたものがありました。

それぞれの委員会の事業のポスターであったり、それからパンフレットであったり、チラシであったり、またインスタの広告であったり、そんなイメージも具体的に示していただきまして、私も具体的に、こんなような事業が進んでいくのかなっていう実感がわいて参りました。

まちづくり委員会の皆さんにはですね、まちなみ情報センターのリノベーションを手がけながら、この若者主体の市民活動の場づくりに取り組んでいくことがあります。このまちなみ情報センターは市の中心市街地の真ん中にありますので、大変いい場所にあります。ぜひ、毎月1回行っております軽トラ市の機会をうまくとらえて、より若者が集まるにぎわいが創出されるまちなみ情報センターになるように、工夫をすることが1つコツなのかなというふうに思っておりますし、そこを拠点としまして、ニューキャッスル・アライアンス繋がりの海外の若者と繋がるような交流ができるような場所としても発展していくことを私は期待しております。

そして若者議会は、東三河の市におきましても、それぞれ若者会議であったり、若者議会が定着して参りまして、東三河の新城市以外の若者とこれからしっかりと繋がっていくような取り組みも、新年度以降できることなら、していただきたいなというふうに思いますし、その若者議会、それぞれの東三河の若者同士が切磋琢磨しながら、その上で新城市的若者をリードしていくような、そんなイメ

ージを皆さんぜひ持っていただきたいなというふうに思います。

そして若者議会委員会では、若者議会のPRを軽トラ市の会場も活用していただいて、2月の雨の降る中であったと思いますけれども、取り組んでいただきました。私は2月の軽トラ市に参加できなかったのですが、私の家族から、雨の中一生懸命若者が頑張っていたよと、本当に評価の声を聞きました。そんな取り組みも含めまして、中学生のさらに認知度を上げるためのフィールドワークの具体的な提案もいただいておりますので、活動の楽しさを、しっかりと伝えることと、また若者同士が繋がることの本当に意義、このこともしっかりとPRしていただけたらなというふうに思っております。

そして農業委員会の皆さんには、まずは何よりも新城市の農業の現状について深く勉強する機会を持っていただけたことがうれしく思います。そのことが、さらに林業はどうなのだろうか。また製造業はどうなるのだろうかという、皆さんの好奇心に繋がっていましたと思しますし、きっと勉強されたと思しますし、またこれからも興味を持って、掘り下げて、そのあたりを調べていただいて、新城市的現状を知っていただきたいというふうに思っております。

また、新城市は来年度令和6年度に、学校給食共同調理場の運用が始まります。1つの給食センターで調理した給食を市内の小中学校に配達していくという、こういう仕組みを導入しますので、ぜひ給食レシピコンテストが、新しくできる共同調理場の魅力の1つとなるような展開を期待しているところであります。

これらの皆さんから今日報告いただきましたすべての事業に、まちづくりへの強い思いが込められたものがありました。先ほど議長も言われましたように、この市議会、3月定例会の会期中でありますけれども、明日が議会の最終日になりますけれども、この3月定例会におきまして、無事議決をいただくことができましたら、来年度の事業展開をしっかりと進めていきながら、若者政策の取り組みについての共感をさらに市内、また市外に広げていけるように、私どもも努力をして参りたいというふうに思っております。

そして本日、皆さんお1人おひとりからそれぞれお言葉をいただきました。何よりも、この若者議会の委員にならなかつたら出会えなかつた仲間と出会えたことこれは皆さんの本当に大きな財産です。これからも繋がり続けていただきたいというふうに思います。

そして、皆さんのがメンバー、若者議会委員の方、またメンター、また市役所職員の方と、いろいろとお話をする中で、自分自身を深く顧みる1年間になったのではないかというふうに思います。そのことが、皆さんのが自分自身はこれからどうあるべきか。そして、今までの自分はどうあったんだろうか、これからこうしていこうという、こうした考え方には繋がったと思いますし、そして先ほども視野が広がることができたっていうことも発言がありました。本当に皆さんのが自信に繋がる、力強く成長されたことが確認できたことを大変うれしく思います。

この若者政策は、若者を応援する、1つの仕組みであるだけではなく、結果的に、皆さんのが、若者が大きく成長するトレーニングとしてのプログラムとして機能していることも、毎年こういう機会に私は、確認をさせていただくことができます。今後ですね皆さんのが活動範囲、行動範囲がまた広がったのだというふうに思っております。皆さんこれから進学されたり、また就職されたり、新しい活動の場で頑張ってくださると思います。大変なこと多くあるかもしれませんけれども、この若者議会での経験を糧に、皆さんにはきっと自分のさらなる可能性と道を切り開いてくださるということを、私も確信をしております。これまで170人以上の委員を輩出して、そして政策提案ももう40を超えてきました。このノウハウを継続してきたことが、この新城市の本当に力あります。

最後になりますけれども、今後もこの若者政策が発展的に持続していくためにも、皆さん、若者議会のメンバーとの繋がりをしっかりとこれからも繋がり続けていただいて、また何らかの形で、若者政策や市の事業に関わっていただくことを皆さんにお願い申し上げまして、皆様へのお礼の言葉とさせていただきます。

皆さん1年間本当にお疲れ様でした。  
ありがとうございました。

○平井緑空議長　ありがとうございました。  
最後に、私自身が振り返りをお話しさせていただきたいと思います。

私は、今期第9期で、若者議会に参加して3年目となりました。初めて第7期に參加した時は、観光委員会という観光について考える委員会に所属しました。この観光委員会に所属した時のきっかけは、中学校の修学旅行がコロナで、東京に行けなくなってしまい地元の旅館に泊まるという形になったんですが、この時に初めて、私ははっきりと地元について関わりました。

そしてこの経験をもとに、地元の新城での観光をもっと盛り上げたい、そう考えて、第7期、高校1年生の時に、この若者議会に参加させていただきました。

第7期の時はまだコロナ禍ということもあります、オンラインの会議がほとんどで、うまく話せないことや、自分の意見が伝わらないといったことが多々ありました。ですが、第7期の終わりのころには、自分の意見をオンライン上でもしっかりと通せるようになったりと、自分の成長を強く実感しました。そしてまたこの経験を、もう一度やりたいというふうに考え、第8期にも応募し参加させていただきました。

第8期では、教育・子育てという、今まで考えたことがない観点に私は挑戦しました。

これも本来高校2年生であれば、受験勉強等や部活等が主軸となり、教育・子育てという観点を考えることはあまりないと思いますが、同じ高校2年生の仲間たちと今までにない、教育・子育てを考えていき、かなり詰まることもあつたりと、悩むこともありましたが、最後にはすばらしい政策を答申できたというふうに思っています。

また、この若者議会以外の活動でも、わかもののまちサミットや他の若者議会との交流会等で、他の県、他の市の方と交流することが増えて、本来ならば、この市のこの同じ市の中のみんなと話すだけだと私は最初思っていたのですが、そういった場を設けてくれるというふうに、最初はすごくうれしかったです。

そして、今では、他の県や市の方と交流をした際も、始めから、私の意見を述べ、そして

相手の意見を酌み取り、お互いにいい意見交換ができるようになったと私は考えております。

この3年間、若者議会を通して、私は自分自身の成長ももちろんですが、皆さんとともにこの日まで、活動ができたことがすごく嬉しいなと思っています。そして、私自身がこの日まで、活動を続けてこられたのは、委員の皆さん、メンターの皆さん、事務局の皆さん、市議会の皆さん、そして家族の皆さんの支えがあったからこそ、この日まで走り抜けてくることができたと思っています。1年間、そして若者議会所属した3年間、本当にありがとうございました。

これをもちまして、第15回新城市若者議会を閉会させていただきます。

閉会 午後8時